

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 新輝豊分教会

大正13年10月31日 輝北宣教所設立  
昭和22年12月26日 移転、改称(輝伯)  
平成19年5月26日 移転、改称(新輝豊)

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。  
つなげよう、信仰の喜びを。

活動  
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。



立教187年  
7月号

**別席・伏せ込み  
ひのきしん団参 実施  
布教部**

布教部(田中隆之部長)は、去る5月25日、教祖140年祭三年千日の年祭活動の一環として、別席・伏せ込みひのきしん団参を実施した。  
大勢の参拝者が東礼拝場に集合し、年祭活動への取り組みについてお諭し



歓談しながら or 黙々と ひのきしん

下さる大教会長様のお言葉に耳を傾けた。続いてそれぞれの年祭活動の取組を胸中に振り返りつつ、一手一つにお勤めが勤められた。その後殿外に移動し、神苑で草引きひのきしんにいそしんだ。天候もよく暑さを感じるほどであったが、参加者は久しぶりの団参に懐かしい面々と出会い、お互いの近況を語り合う姿があちこちに見受けられた。また青年会は長らく控えていた活

6月6日夜8時、10人はワゴン車2台に便乗し大教会を出発。2回目の能登半島支援活動の炊き出しの為に珠洲市に向かいました。  
珠洲市にある宝立小中学校の避難所近辺は、珠洲市内でも一番被害の大きかった地域で、避難所には約50数人の人達が幾つかの教室に分かれ避難しておられました。更にその小中学校に隣接する仮設住宅が約200軒ほどあり、多くの家を失った人たちが生活されています。11時半から13時過ぎまでに27食を全て出し終えました。多くの方々から感謝の言葉を頂き勇ん

**能登半島支援活動(第2回目)  
報告とお礼  
会長室**

動資金カンパの売店を詰所内に催し、多くの帰参者が買い求めに集まり談笑するなどして、詰所館内は久々に賑やかな雰囲気になりました。  
(副部長 佐藤 真 孝)



半年経っても復興が進まない現状

で貰えるようにとの思いで来たのにもかかわらず勇ませていただきました。その後、近くの珠洲市内朝日避難所(30人ほどが避難されている)を訪問し、出発前に預かっていたスイーツや飲み物など50食分を届けさせて頂きました。災害から既に5ヶ月以上が経っているのにも関わらず、潰れた家屋や水に流された家屋はそのままであり、まだまだ復興への道のりは先長く、継続が必要であると感じました。  
尚、この度皆様から寄せられた能登半島復興支援の寄付金は6月4日まで2317,989円集まりました。6月初旬に大教会長さんと相談をして、珠洲ひのきしんセンターに15万円の寄付をさ

せて頂きました。珠洲市内で避難されている方々の必要な物を購入して届けられるそうです。残りは大教会には留保しています。寄付する良い場所があればさせて頂こうと考えています。皆様の真実の寄付を有難うございます。

(会長室員 上原 志郎)

### ▼参加者の声

吸江分教会 西村 由理子

6月6日夜10人で、珠洲市へ2回目の炊き出し支援に行かせて頂きました。朝6時、ひのきしんセンターである北乃州分教会に到着。参拝場に置かれたホワイトボードには連日来られる教会のスケジュールが書かれていて、地元の方からひのきしんさんと呼ばれているそうです。

被災された方々を想い勇んでおつとめをし、避難所となっている宝立小中学校で炊き出し。開始前から長蛇の列ができ、200食のお弁当(ロコモコ丼、ポテサラ、スープ、スイーツ)と飲み物を笑顔で一言ずつ声かけながら提供している、「体調はまあまあだけど、家は津波で全壊でなあ」と。涙が出て、返す言葉がありませんでした。その後、少し離れたあさひ避難所へ



倒壊した建物を前に、私達の微力さを感じる

お菓子や飲み物を届けさせて頂きました。ここでは避難者自らが外の調理場で炊き出ししておられ、笑顔で助け合っている姿に親神様教祖もどんなにかお喜びのことだろうと思いました。移動の際道路はだいぶ改善され、田んぼや庭先の花に少し安堵したけれど、海岸近くを通ると前回とほぼ変化ない様子に、まだまだ息の長い支援が必要だと感じています。

この度も教友や友人達から支援金や食材、車中で食べてとお菓子も届きました。前日には、スイーツ作りやお弁

当の下ごしらえといった、陰の支えがあつてこそその支援だと思えます。また、2時間おきに交替で運転して下さった方々、本当にありがとうございます。今回も、ドリームチームの一手一つの姿に感動しています!!

東福山分教会 枝 広正 寛

今回、笠岡大教会からの能登半島支援活動に初めて参加させていただきました。笠岡大教会からは総勢10人で片道10時間ほどかけて現地に到着しました。ガタガタで不安定な道路や崩れたままの家屋が多くあまり復興が進んでいない、という印象です。拠点である北乃州分教会を経由して、宝立小中学校で炊き出しをしました。メニューはロコモコ丼、ポテトサラダ、スープと盛りだくさんで、避難所や仮設住宅の方には、「遠くからありがとうございますおいしかったよ」と明るく声をかけていただきました。

初めて支援活動に参加させていただき、最初は被害状況から1人の力は小さいな、と虚しい気持ちになりましたが、10人いればこれだけ多くの人に喜んでもらえるんだとも思いました。今まで被災地のために祈る事しかできて

いませんでしたが、実際に動いて現地 of 空気を感ずること、もつと何かさせてもらいたいという気持ちになりました。今回は参加させていただきありがとうございました。

甲井分教会 山田 英嗣

「能登へ行かない？」と上原志郎先生より声を掛けて頂いたのが、この度支援活動に参加させて頂いたきっかけです。炊き出しをするとの事で、お役に立てるだろうかと不安に思いましたが、せめて遠い能登までの運転だけでも頑張らせて頂こうと参加を決意しました。

多くの方々による事前準備の食材や荷物を積み込み、夜7時ごろ大教会を出発し、明け方に現地に到着しました。テレビで見たまのまま、まだ家屋が倒壊したままの街並みを目の当たりにし、ここで炊き出しをさせて頂いてはたして被災者の方々が本当に来て下さるのか？というのが私の第一印象でした。炊き出し現場の宝立小・中学校で準備が始まり、提供開始までの3時間、私以外の9人の先生方の手際の良さに驚きながらも、まだ心の中では、「こんなに沢山の数を用意して本当に来



200食の昼食を出し終えて

てくれるのか？」という不安の気持ちがありました。

しかし、時間になると行列が出来るほどの多くの方が来て下さり、「いただきます。ありがとうございます」と直接、感謝の言葉を聞かせて頂きました。参加させてもらって良かった、次回があるならまた来たい、と思った瞬間でした。いつも当たり前に過ごしている日常生活がどれほど有難く、決して当たり前前の事等一つもない親神様の御守護であるのかを改めて感じさせて頂く事の出来た貴重な体験となりました。

## 女子青年委員長講習会 笠岡から2人参加 女子青年

6月15日・16日に天理教教会本部で行われた女子青年委員長講習会に参加させて頂きました。婦人会長様のお話、女子青年活動についてのお話、中野大教会長深谷徳重先生の講話を聞かせていただいたり、グループで話し合いをしたりしました。

婦人会長様は、「女性の在り方」「おふでさを身近に感じること」「教祖のひながたをたどり、心の成人への歩みを進めること」の3つのポイントに分けてお話をしてくださいました。その中で、もとはじまりのお話を学び、男女がそれぞれのはたらきを果たして助け合って生きていくこと、おふでさを通して「親」の心を知ること、心の成人に向けて教えを素直に実行することの大切さを教えていただきました。

女子青年活動についてのお話では、教祖140年祭に向けて、「女子青年活動のかどめ」を日々しっかりと実行することが大切だと聞かせていただきました。その中で、親神様・教祖に心を

なく参拝・おつとめ、日々の御守護への感謝を行動に表すひのきしん、何事にも喜びを見つけようとする姿を通してのいをいげなど、かどめを実行することでどんなときにも親神様の御守護やお導きを感じられる心を育てるのだと教えていただきました。

深谷先生の講話では、「女子青年活動のかどめ」の1つである「にをいげ」について、「にをいげ上手」ではなく、「にをいげ熱心」を目指すのだと聞かせていただきました。その中で、おいをかけてくださるのは親神様であるので、私たち人間は、ひたすら熱心にやり続けることが大切だと教えていただきました。「にをいげ」と聞くと、チラシ配りや戸別訪問をイメージして、とてもハードルの高いものだと感じてしまっていました。あ、いさつや少しの声かけ、ちょっとした行動が人の心を変えることもあり、自分の行動や姿で教えを示す・伝えることもできると分かりました。

グループの話し合いでは、同世代の仲間たちと教えや女子青年活動について、自分の経験や考えを話しました。同世代でお道の話をすることは普段ほとんどないので、いろいろな話を聞く

ことができ、とても良い刺激になりました。

今回いろいろなお話を聞かせていただいたり話し合いをしたりする中で、全てのことは自分の心のつかい方次第で変わると感じました。私たちが自由につかうことを許されている心だからこそ、どんなことでも喜べる心のつかい方をするのが大切だと思います。今回の講習会で学んだことや得たことを今後の女子青年活動に生かし、より充実したものにできるよう努力していきたいと思えます。

(笠岡女子青年委員長 岡崎真実)

## こかんさまに続く会

女子青年

笠岡女子青年(岡崎真実委員長)は、6月22日、笠岡大教会でこかん様に続く会を開催、女子青年12人、担当者7人の計19人が参加した。

支部長様からのお話では、元の理やお道の教えに触れながら、教祖とはどのような存在か聞かせていただきました。その中で、私たちの身体は神様からの借り物であり、自分のものとして



支部長様のお話振り返り

与えていただいている心のつかい方を考えることが大切だとお聞かせくださいました。自分のつかい方次第で物事の見え方・感じ方が変わるので、どんなことでも喜べる心のつかい方ができるようにしていきたいと思いました。お話の後には振り返りを行い、率直な感想を話しながら、自分たちの心のつかい方を見つめなおすことができました。また、昼食はバーベキューをさせていただきました。海松ヶ岡分教会の会長様



支部長様と笑顔でピース！

が作って下さった鉄板焼きや焼きそば、担当の奥様方が作って下さったスイーツ、アイスやかき氷などもいただいで、とても楽しい時間を過ごすことができました。今回もたくさんの方が参加してくださり、充実した会にすることができました。支部長様をはじめ、担当の奥様方、声をかけてくださった方に、参加して下さった会員さん、本当にありがとうございます。  
(委員長 岡崎 真実)

## 修養科終了生の声

### 宝の山修養科

大恵山分教会 山中 祐二 知子

無事夫婦揃って修養科を修了させて頂きました。主人の身上をご守護頂きたい一心で修養科行き心の定めをして主人も納得の上でおちばへ帰らせてもらいました。主人と私にとって41年間朝早くから夜遅くまでの仕事ばかりの毎日を過ごしてきましたが、昨年3月末に脳出血で主人が倒れて仕事を続ける事は無理だと思い、会社を廃業することに決めました。主人が倒れた事は非常に辛い事でしたが、今から思えばこれは親神様の深い親心があつての事だと改めて気付かせて頂きました。

修養科の生活は慣れない事が多く、その為主人には精神的にも辛い時もあり、何とか慣れていこうと努力している姿に元気づけられました。授業は楽しく知らない事も多くありましたが、

教祖伝、教典を勉強するなかで多くの学びが有り、人の前で話しをする感話

の時間も私たちの心の中の思いを出す良い機会にもなりました。そして自分の事ばかり考えていた私達に多くの身上、事情を抱えている教友達の心の内を知り、自分自身の事の様に心配し、話しを聞かせていただき、おさづけを取り次がせていただけました。

修養科には人と人との出会いが多く、修養科の担任の先生方、教養の先生方、撫養大教会土佐先生、生駒大教会大井さん、山陰大教会井本さん達との素晴らしい出会いが有り大変感謝しております。

最後に高井久太郎先生の講話はとても心に残りました。

- 1, 人を勇ます生活をしよう、人を喜ばす生活をしよう
- 2, かしものかりものの理を分かっ  
て毎日を送ろう
- 3, 親神様、教祖の手を離さないよ  
うに

この3つの事を修養科後も忘れずに通って欲しいという内容でした。修了後は私達にとって第二の人生だと思っております。親神様への親孝行はおつとめ、教祖への親孝行はさづけと教えて頂きましたので、毎日実行させて頂きたいと思えます。

# 末の弟のまなざし

## ▼道雄兄雅志兄の事など

眞雄兄の偲びが終わって、次は上から順番に心にある事柄、を述べていこうと思う。

道雄兄から。私は此の世で会った事はないので、父母から聞いた話、大教会史執筆の為に史料蒐集の過程で心に残った史実を誌していきたい。この兄は天理外语で英米学科に在籍中、選ばれてアメリカに研修に行っている。飛行機で旅行できる時代ではないので、船旅だったろうと思うのだが、一人旅で恐らく行く先はロサンジェルス传道庁だったと思う。別に知己があるわけでもなく、心淋しい思いがしたのではないか。そのときに書いたもの、日

記風のもの、一人旅の感想など、先日会長宅の倉の中を見ていたら、ほこりを被って紙袋に入ったまま積み上げた箱の上にポイと置いてあった。

昭和10年代？ いや初年代、大学生で経験したアメリカの印象は衝撃的であつただろうと思う。私がニューヨークターンプイク、片道10車線以上の高速道路を見てアメリカの物量輸送のすごさに驚いた以上のものがあつたのではないか。恐らく2代真柱様の次代の若者を育てる上からの米国派遣だつたと思うのだが、笠岡の海外布教への思ひは、道雄兄のこの旅行から始まつているように思う。若し彼が昭和14年12月22日中支・湖北省京山県劉家嶺で亡くなつてなければ、帰国してアメリカ布教を推進して行つたと思う。不思議に4番目の豊明兄は、台北帝大から戦後京都大学哲学科へ再入学し、卒業後、

2代真柱様の思いを受けて、アメリカ伝道庁勤務の傍らサザンカリフォルニア大学に留学、コロンビア大学を経てインディアナ大学に奉職する事になるのだが、そこにはやはり道雄兄の遺志があつたのではないか。

府中市分教会へ教会史の取材に行つた時、取材が終わつて部内の教会長さん方がお帰りになつた後、道人会長さんと話をする機会があつて、あの方はビール党で最後までビールだつたが、「学生時代、年に2、3回道雄さんと詰所の会長宅に招待頂いてすきやきをご馳走になつた、あの時代あの年頃で、今もあのときのおいしいすきやきの味が忘れられない」と話してくださつた。道人さんは外语中国学科だつた。卒業後満州へ出られたと思う。余談だが、この時2時間程話し込んで、岸本の真理さんを車に乗せて神邊の教会まで

帰つた。真理さんは部内教会史取材の助手をして下さつていた。見事な何とか運転で、よく事故を起こさなかつたのが幸いでした。

簡単に昭和12年頃からの道雄兄の事歴を書いておく。昭和12年7月15日徴兵検査第1乙種合格、同年12月12日天津伝道庁へ向け出発、同月25日門司港で召集令状を受け翌日帰会。昭和13年1月10日岡山市歩兵第11連隊入隊。その後、幹部候補生として豊橋教導学校卒業後、会津若松の部隊に配属、昭和14年12月2日陸軍少尉に任官。同年12月22日、中国湖北省で戦死24歳。

年祭は5年祭(昭和18年10月22日)・10年祭(昭和23年12月22日)・30年祭(昭和44年12月22日)・50年祭(平成5年4月25日)・教会本部合祀(昭和35年4月25日)。  
この項続く。

## 大教会だより

### ◎第九九四期修養科

自 立教187年4月1日  
至 立教187年6月27日  
\*教 養 掛(主任、副主任)  
一ヶ月目 岡崎 真一

(大教会役員)  
掛 谷 宣 和  
(坪生分教会長)  
二ヶ月目 吉岡 誠一郎  
(大教会役員)  
副 福 島 大介  
(福満分教会長)

(大教会役員)  
谷 内 伸 自  
(輝美濃分教会前会長)  
副 下 田 誠 輝  
(神村分教会長)

\*修 了 者  
大恵山 山中 祐二  
大恵山 山中 知子

## 訃 報

岡崎京子さん  
呉照分教会前会長夫人  
6月29日出直されました。  
享年 94才

# 六月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には子どもかわいい一条の親心のまにまに 天然自然のお働きと自由の御守護を賜り陽気ぐらしへとお導き下さいますことは 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は生かされている喜びを胸に朝夕に御礼申し上げます 一条の御用の上に努め励まして頂いております

その中にも今日の吉日はこの笠岡の六月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝とたすけ心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を樂しみに寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお継りする皆の誠真実の状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて先月二十五・二十六日とたすけの元であるおぢばにしつかりと繋がらせて頂くべく 別席伏せ込みひのきしん団参を実施し 共々にひのきしんの汗を流させて頂きました

また今月一日二日には 第二回目「ようぼく一斉活動日」が開催されました 同じ地域に住むようぼくが寄り集い お互いに勇ませあい喜ばせあつて年祭に向かつての成人の歩みを進める機会とさせて頂きました

何卒親神様には 年祭の旬に込められた親の思いを胸に たすけ一条に邁進する皆の誠真実の心をお受取り下さいまして 万たすけの上に親心一杯の自由の御守護を賜り お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいませよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## 立教百八十七年 六月月次祭 祭典役割表

祭主		扨者		講話		役割		区分	
大教会長様	吉岡誠一郎	山野弘実	横山逸郎	谷内伸自	横山逸郎	浅野明教	大教会長様	前	後半
指図方	門脇元教	賛者	岡崎治喜	佐藤真孝	八月講話	今川昌彦	中島誠治	吉岡誠一郎	田林久嗣
おつとめてをどり	大教会奥様	森本忠善	虫明立生	虫明立生	赤木素志	岡崎治喜	上原善朗	杉原善朗	上原繁次
笛	杉原善朗	岡崎治喜	上原繁次	上原繁次	赤木素志	岡崎治喜	上原繁次	杉原善朗	上原繁次
ちゃんぽん	上原善朗	赤木素志	杉原善朗	杉原善朗	高木昭祥	岡崎治喜	上原繁次	杉原善朗	上原繁次
拍子木	吉岡壽浩	高木昭祥	岡崎治喜	岡崎治喜	三代温生	内海史郎	内海史郎	内海史郎	内海史郎
太鼓	虫明立生	三代温生	内海史郎	内海史郎	浅野明教	上原志郎	上原志郎	上原志郎	上原志郎
すりがね	佐藤道孝	浅野明教	上原志郎	上原志郎	佐藤道孝	上原志郎	上原志郎	上原志郎	上原志郎
小鼓	田中隆之	佐藤真孝	上原志郎	上原志郎	田中隆之	上原志郎	上原志郎	上原志郎	上原志郎
琴	武内正美	岡崎豊子	内海安子	内海安子	武内正美	内海安子	内海安子	内海安子	内海安子
三味線	今川佐智子	横山小智榮	室悦子	室悦子	今川佐智子	室悦子	室悦子	室悦子	室悦子
胡弓	上原順子	三島照美	吉岡八恵	吉岡八恵	上原順子	吉岡八恵	吉岡八恵	吉岡八恵	吉岡八恵

# 立教187年 学生生徒修養会 高校の部

お道につながる高校生がおぢばに帰り集い、合宿生活を通して絆を深め、陽気ぐらしのみ教を学びます。

## 募集要項

- ▽期 間・・・令和6年8月9日(金)～8月13日(火)
- ▽受講対象・・・高等学校に在学し、全期間受講できる者
  - ※ 親里管内については天理高校第I部の自宅通学生に限り受講可能です。外国語の通訳、翻訳の対応はできません。
  - プログラムへの参加が著しく困難な方は受講をお断りする場合があります。
- ▽募集人員・・・900名(男子450名、女子450名)
  - ※ 定員に達した場合、締め切らせていただきます。
- ▽内 容・・・講話、グループワーク、レクリエーションなど
  - ※ 別席を受けられる方は9日午前席を運んでください。
- ▽集 合・・・8月9日 正午(昼食は済ませてからご集合ください)
  - ※ 詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- ▽解 散・・・8月13日 午後2時頃(予定)
- ▽受講御供・・・10,000円 詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。

## 申し込み

- ▽申込方法・・・以下の書類をととのえ、直属教会長の署名・捺印をいただいた後、学生担当委員会事務局に申し込んでください。
  - ・受講願書1通
  - ※ 本年より返信用封筒は不要です。受講にあたっての詳細および必要事項は7月15日以降にHappist(高校の部/紹介ページ)でご確認ください。
- ▽申込期間・・・令和6年5月25日～7月25日
  - (事務処理の関係上、願書はなるべく7月18日までに提出してください)
- ※ Happistでも受講願書のダウンロードができます。 <https://happist.net>  
 受講願書は学生担当委員会事務局、直属学生担当委員会、各教務支庁にあります。  
 本人の意志を確認の上、お申し込みください。  
 期間中の映像や写真は、印刷物及びインターネットを通じた広報に使用することがありますのでご了承ください。

## 問い合わせ先

天理市守目堂町213-4 おやさとかた真南棟3階 学生担当委員会事務局  
 《郵便》〒632-8790 天理郵便局私書箱1号  
 《電話》0743-63-2489(学生担当委員会事務局)/FAX 0743-62-5780



高校の部  
紹介ページ

主催・・・天理教教会本部 事務局・・・天理教学生担当委員会

## 詰所からのお願い

### 詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。



我が家は瀬戸の海を眺望できる里山のふもとにある。その山裾に広がる草

地に伐採された木が立っている。毎年、春になるとこの木の下で美しく大きな雉のオスが「ケン、ケン」と鳴く。木の下でケンと鳴くので「木下ケン」と名付けて可愛がっている。とは言っても窓から眺めているだけだが...

雉は国鳥である。「日本の固有亜種であること、人里にいて馴染みやすいこと、オスは勇敢でメスは母性愛が強いこと」がその理由であるようだ。さて、ここにはたまにサルも現れる。近所には飼犬もたくさんいる。イヌとキジ

とサルがいて、桃も時にいただくことがある。これは桃太郎の世界だと喜んだのもつかの間、オニはどこにいたのだろうかと考えた。オニの棲み処とならぬよう心の「ほこり」を払いたいものである。(V)